

タイルカーペットの「丸洗いリセット洗浄」と「リユースサービス」説明会開催



本誌でもたびたび報告してきたタイルカーペットのリセット施工。タイルカーペットを剥がして丸洗いする技術だが、これをメーカーと共同で開発の中心を担ってきたのが株式会社エムシープランナーズ（東京都江東区）だ。5月号で紹介したように、この技術はいまやクリーニングにとどまらず、買い取って新品同様のリユース品に再生させ販売する事業にまで発展している。SDGsの機運が高まるなか、建築、設計、不動産から廃棄物処理に至るまで、幅広い業界関係者も注視する。同社が行った説明会取材した。（編集部）



株式会社エムシープランナーズ
 畠山文明社長

循環経済と タイルカーペット

「丸洗いリセット洗浄によるタイルカーペットのリユースサービス説明会」が4月5日、江東区産業会館で開催された。午前の部と午後の部で約50名が参加した。

主催したのは(株)エムシープランナーズ。同社は3月15～17日に開催された第1回サーキュラー・エコノミー展に出展し、来場者に説明会への参加をよびかけたところ、これほどの人数が集まった。

サーキュラー・エコノミーは循環経済という意味で、「従来の3Rの取り組みに加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を指すもの」と環境省は説明する。

オフィス等に敷かれるタイルカーペットは、使用可能にもかかわらず

張り替えでほとんどが廃棄される現状を考えれば、だれしもモットイナイ！と思うのが普通だろう。

説明会には、循環型社会の実現に関心をもつ、建物のライフサイクル全般にわたる関係者が集まった。同社の畠山文明社長は最初の挨拶で、「タイルカーペットは汚れたら張り替えるという認識が一般的だと思いますが、それがきれいに再生でき、リユースできるということを見ていただき、みなさまの事業のプラスになれば」と述べ、「カーペットは使い捨てじゃく、リユースできる！」ことを広めたいと訴えた。

廃棄量は 港区の面積に相当

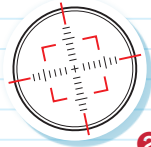
挨拶に続き、畠山社長は同社のメイン事業である石材とタイルカーペットの再生施工について紹介。①日本におけるタイルカーペットの現状、②汚れたタイルカーペットのリセット洗浄実演、③リユースタイル

カーペット『エシレ』の紹介、④リユースを選択することでの環境貢献度の説明という流れで進められた。

①日本におけるタイルカーペットの現状

現在、タイルカーペットはオフィス、商業施設、空港、ホテル、病院、老健施設など、さまざまな施設の床に敷かれている。テナントの入れ替えなどで、毎年10万トンも廃棄されるといわれる。これを面積に換算すると2,000万m²となり、港区と同じ面積に匹敵する。

畠山社長はそう解説しながら、CO₂が削減できること、新品の張り替えと比較すると約半分のコストで済むことなど、環境性や経済性のメリットについても説明した。



②汚れたタイルカーペットの

リセット洗浄実演

続いて、会場後方に用意したリセットマシンで丸洗いするデモンストラーションを行った。

機械にタイルカーペットを挿入すると、洗浄・リンス・脱水が自動で行われる様子を実演。洗浄前のタイルカーペット1枚の重さの測定や、水を含ませてリンサーで回収したときの水の濁り具合、マイクログラフでダストポケットの状態を映すなど汚れの状況を示し、リセットマシンで洗浄した後、そのタイルカーペットがどのくらいきれいに再生されたかを比較することによって、参加者は大いに理解を深めた。

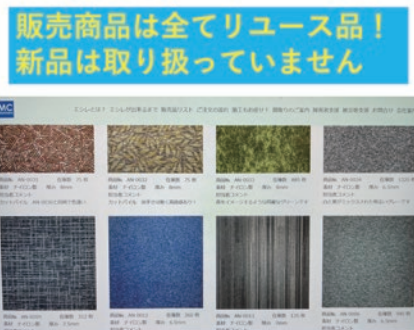
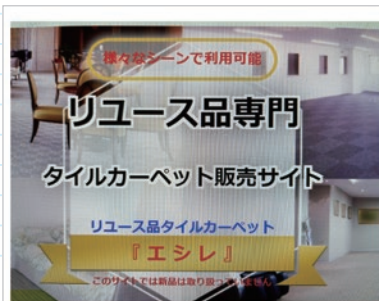
リユース商品『エシレ』の販売

③リユースタイルカーペット

『エシレ』の紹介

実際のところ、現場の施工量には限界がある。「この成果でもっと社会に貢献できないか？」と考えた畠山社長は、廃棄予定のタイルカーペットの購入を決断。使えるものをリユースし、社会に循環させることにチャレンジすることにした。

リユース可能なもの（ナイロン繊維）を選定したうえで、1枚1円で



デザインと在庫枚数を
確認していただけます

⇨ エシレ販売サイト

買い取る。買い取ったものは、千葉県大網白里市に建設した「タイルカーペットリユースセンター」（技術センター）で丸洗い洗浄を行い、リユース品として商品にする。

畠山社長は、工場での作業について、洗浄から除菌処理を経て、長期保管するため真空パッケージに梱包するまでの工程を説明した。

こうして商品となったリユースタイルカーペットは、『エシレ』という商品名で販売されている。エシレとは、エシカル（Ethical：倫理的）とリユース（Reuse：再利用）を合わせて畠山社長が命名した。

「製品のクオリティを見ていただくと、リユース品のほうがいいと思われるお客様が増えています」と、品質と顧客満足度に自信を見せる。経済性と環境貢献を考えれば、リ

ユース品を選ぶ価値は大きい。

現在、『エシレ』専用の販売サイトを開設しており、そこで在庫商品の画像と枚数などを調べ、問い合わせられるようになっている。

さらなる社会貢献への取り組み

④リユースを選択することでの

環境貢献度

技術センターには、重度の知的障がい者が働いている。特別支援学校を卒業し、チームの一員になって3年目になる。生産量も仕上がりが健康者と同じで、十分、一人前の戦力として頑張ってくれている。リユースが広まれば、こうした障がい者や高齢者の仕事にもつながる。

また、特別支援学校と提携し、リセット洗浄の授業も提供している。生徒はタイルカーペット洗浄を通して、働くことの意味を学んでいる。

さらに、災害で被害を受けて修復した家屋の床にリユースのタイルカーペットを仮設住宅などに提供する事業も実施している。その関係もあり、リユース品の販売額の一部を寄付することで、認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）を支援する取り組

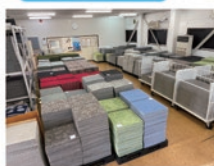
タイルカーペット リユースセンター — 千葉県大網白里市 —



回収された使用済
タイルカーペット



リセット洗浄された
タイルカーペット



丸洗いリセット洗浄

参考資料

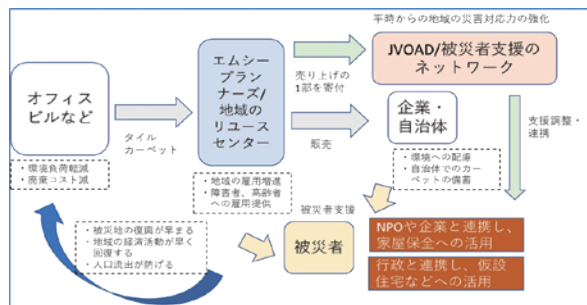
リユーススタイルカーペット「エシレ」を活用した、 環境負荷の軽減と災害対応力の強化を目指す、新しい社会課題解決への取り組み

特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)

JVOAD (ジェイボアード) は、株式会社エムシープランナーズとの協業により、全国の災害対応力の強化を目指す、新しい取り組みを開始した。エムシープランナーズが販売するリユーススタイルカーペット「エシレ」の活用を促進することで、環境負荷の軽減とともに、災害時の被災者支援および平時からの支援体制の構築に貢献していく。

- **災害時**：被災地支援に「エシレ」を活用し、被災した家屋等の住環境整備に役立てる。
- **平常時**：「エシレ」の売上げの一部(エシレ1枚につき5円)をJVOADに寄付することで、JVOADが進める災害支援のネットワークづくりやNPO等の支援体制を整備する活動に使われる。

この協業により、災害時だけでなく平時から地域の災害支援のネットワークづくりやNPO等の支援体制が整備され、地域の災害対応力が強化される。同時に、環境への負担軽減が期待できるリユース品の活用はまだまだ認知度が低いため、今回の協業を通じて再利用の促進が進むことが



期待される。

JVOADは災害時の支援の「もれ・むら」をなくすために、行政、災害ボランティアセンター、NPOや企業との連携を進めているが、近年の自然災害における被害の甚大化、広域化を受け、被災者へより効果的な支援を行うために地域ごとの災害対応力強化にも積極的に取り組んでいる。

問い合わせ 認定NPO法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク ☎080-5961-9213 メール: info@jvoad.jp (担当: 石井)



タイルカーペットの敷き込み作業

みを始めた(参考資料)。JVOADは経団連とも連携しており、リユース品を選ぶことが被災地への支援になるということで、リユース品を購入する動機付けとなることを期待している。

このような活動が、内閣官房が毎年取りまとめている『国土強靱化民間の取組事例集』の令和3年度版に取り上げられた。

カーペットは使い捨てじゃないことが周知されるのは、われわれにとってやり甲斐になっています」と述べながら、さらに新たな取り組みとして、自社にランドリーショップを設置。お客様がタイルカーペットを持ち込んで自ら丸洗いを体験できたり、クリーニング屋のように預けたりできるようにした。

今後の構想として、カーペットが丸洗いできることを子どものうちから知ってもらおうと、タイルカーペットの端切れを利用したアート作品のワークショップも計画中だ。

畠山社長は、取り組みの課題を次のように整理する。

- 1) リユース可能な使用済みタイルカーペットの確保
- 2) リユーススタイルカーペットを採

用する企業・施設の拡大

- 3) リユース事業に取り組むチームの育成(企業・自治体など)
- 4) ビズネスと成り立つシステムの構築

このリユース事業が成り立つには、何よりも収益が出せるようになることが重要だ。各方面への周知活動によって認知を広げる一方で、この事業に取り組む仲間を増やすことだと畠山社長は指摘する。

そのためには、さまざまな団体と連携を深めることはもちろん、リユース品の提供者、購入者の和を広げるとともに、リユース事業に参入する事業者の数も全国的に増やす必要がある。SDGsに取り組む企業などは、一度問い合わせてみてはいかがだろうか。



このように、畠山社長は「タイル

株式会社 エムシープランナーズ
電話 03-6666-2766 <https://www.mc-planners.com>

